

# 同窓会便り

発行  
東北大学・電気・通信・電子・情報同窓会  
仙台市荒巻字青葉  
TEL 22-1800  
発行責任者  
高野知彦  
(題字 高野知彦氏)

## 岡部金治郎先生を偲んで

佐藤利三郎  
(昭19通信卒)

東北大学電気系の大先輩であり、我々の誇りであった岡部金治郎先生が昭和五十九年四月八日、肺炎のため永眠されました。享年八十八歳でありました。臨んで哀悼の意を捧げます。

岡部先生が東北大学に奉職中に行った分割陽極マグネトロンの研究はあまりにも有名であります。大正十一年東北帝国大学工学部を卒業後直ちに本学工学部電気工学科の講師、助教となり、その後、助教授となられたところで、先生は当時のことを昭和五十五年十

## 大原儀作先生を偲んで

坂田好一郎  
(昭32電通修士卒)

大原儀作先生には昭和五十九年九月二十二日脳梗塞のため大宮中央病院で逝去されました。

私がこの訃報に接したのは、中国での公務出張を終えて、九月二十四日に上海から成田へ向う機中で配布された新聞によってでした。昨年十二月に高血圧で体調をくずされ二週間程入院され、その後お元気になられたと伺っており、先生は、帰国後中国のみやげ帰りに参上しようと思っていた矢先のことです。返す返すも残念でございました。私達は、今ももう再び先生の温顔に接する術もありません。お声を聞くこともできません。人生の無情を痛感し、哀惜の情に耐えない次第であります。

大原先生は昭和二年東京物理学校理化学部へ向う機中で配布され

## 菊地喜充先生を偲んで

清水洋  
(昭23電気卒)

菊地喜充先生は、昭和四十九年に東北大学を定年で退官の後、東北工業大学の学長をしておられました。昭和五十一年三月に脳血栓のため病床生活に入られ、それから八年半再起を期してリハビリテーションに励んでおられました。昭和五十九年十月三十日、通院中に急性心筋梗塞で倒れられ、翌三十一日夕刻仙台厚生病院において七十四年の生涯を閉じられたのであります。

先生は大阪のご出身ですが、旧制甲南高校から仙台の東北大学工学部に進まれた。少年時代からアマチュア無線や写真に興味をもつて過された先

が、しかし念のために、自分でいろいろと実験している内に、回路に手を近づけると陽極電流がわずかながら変動することが見つかった。これ、何かしら共振していることがわかった。これがマグネトロンの研究を始めた動機であった。又「さらに当時の東北帝国大学電気工学科ではある程度思いうような電子管を作る技術をもっていた。このような技術をもった理工系大学は日本国内一つもなかった。マグネトロンの研究が順調に進められたのも全くこの技術のおかげである」とも述べられていた。

昭和八年大阪帝国大学工学部が創設されるに当り、八木秀次先生

きな情熱を注がれた。停年退官されてからも、東京電機大学教授として、教育、研究に携われると同時に、理事、評議員として大学の経営、管理、運営面にも目を向けられ、活躍してこられた。先生は、この研究は、圧電材料としてのロッシェル塩単結晶の育成に始まり、その後ADP、KDP、EDT、DKT、LH、TGS、水晶等多種類の結晶に亘って多岐にわたる。なかでも水晶の水熱育成に関する研究成果は日本電波工業K.K.により工業化され、人工水晶量産技術の確立につくした。先生の功績は非常に高く評価されております。

単結晶の研究とともに一方では、チタン酸バリウム、ジルコニウム、チタン酸鉛などのセラミック圧電材料についても早くからその将来性に着目され、新しい圧電セラミック材料組成の開発に意を注がれた。基礎から応用まで一貫した研究をすすめてこられた。今日のエレクトロニクス・セラミック材料発展の基礎を築かれた。また、我が国に於てはじめて電子通信材料としてのルビー単結晶、酸化亜鉛単結晶のオートクレーブによる水熱育成に成功したことなどは特筆に値するものであります。

生は、当時電気通信の研究で活気の漲つていた東北大学の電気以外に自分の学ぶべき大学はなかったとおっしゃっておられました。

昭和八年に東北大学を卒業された後、助手として、また同一年からは助教として、抜山教授の下で水中音響通信の研究に従事されました。昭和十三年に日本電機株式会社に転職されたが、同二十一年に通研の最初の専任教授として再び東北大学に迎えられる。定年まで勤められました。その間、通研所長を九年間も務めておられます。東北大学での三十数年間は、先生は、一貫して超音波工学一筋の研究活動を続けられ、多くのすぐれた研究成果を残されました。

磁歪振動子の研究は、先生のリイフワークともいうべきもので、著書「磁歪振動と超音波」はこの分野唯一の専門書となつております。先生が中心となつて研究開発されたフレイト磁歪材料は、磁歪振動子の性能を劇的に向上させ、広く実用されています。これらの業績に対し、紫綬褒賞、特許庁長官賞、大河内記念技術賞、東洋科学技術賞などを受賞されています。

先生は、超音波探傷法、さらにはこれを医学に応用した超音波診断法について、戦後逸早く研究を開始し、その開発・実用化に大きく貢献されました。特に超音波診断法は近年急速な発達を遂げ、超音波医学なる新分野を開くに至つています。先生は超音波医学の初代の会長として活躍され、また「超音波診断法を創始した功績」により、朝日賞を受賞しておられます。

電気工学科を御卒業なさいました。常に八木秀次先生に師事し、八木先生の高弟として歩まれた先生の御生涯は、故郷山形県生田郡(学生院)が八木先生の高弟として、北海道大学から武蔵工業大学と勤められた御生涯と共に我々に深い感動を与えてくれたのであります。

岡部先生は御言葉にあるように東北大学の電気工学科を愛し、すぐれた独創性にとんだ偉大な足跡をのこして下さりました。我々も一段と覚悟を新たにすると共に、先生の御逝去に深い哀悼の意を表し、先生のみ霊の安らかならんことをお祈りする次第であります。

先生は、このように深い学識、豊かな経験、卓越した先見性をもつて、圧電性強誘電性単結晶ならびにセラミック材料の研究開発に指導的役割を果たされ、紫綬褒章をはじめとして、オーム技術賞、大河内記念技術賞など多くの栄誉を受けられました。そして昭和四十九年には、昭和四十九年に叙せられた日中親善大使に就任されました。大原先生は豪放磊落で、人情味に富み、気が配り、明治生れの人の、よきところを多く身にそなえた方でした。先生のお酒の話になりませんが、私は先生の助教授をしていた関係で、先生のお酒を召し上り下さした。

大原儀作先生の御冥福を心からお祈りいたします。

昭和初期にすでに車の運転免許を取られ、戦後、学内では誰よりも早く自家用車での通勤を始めたこと、新しい機能のカメラが発売されると次々に購入し、試しておられたこと、など先生の特徴的な一面を示す思い出は、数えきれません。

菊池先生の残された業績と思ひ出の一端を記し追悼の詞とさせていただきます。

## 情報工学科新設

文部省の五十九年度概算要求で学科新設が認められたのは、国立大学では本学の情報工学科が一つでした。本学は六講座、学生定員五十名で昭和五十九年四月一日からスタートしました。但し、学生の募集は電気・情報系一括(定員一九五名)で行い、三年次になつてから各学科への配属がなされます。講座の構成は以下の通りです。

基礎情報学 知識工学 言語情報工学 計算機工学 情報伝送工学 情報システム工学

以上の六講座のうち、最初の三講座は、通信工学九講座の中から情報工学、情報処理工学の三講座を振り替えたものであり、後者の三講座は情報工学専攻の基幹講座の振り替えであります。

なお、七番目の講座として生体情報工学講座の増設を要求しております。

以上、新設された情報工学科について簡単に御紹介しました。(木村記)

## 虫明康人先生 御退官

永年本学電気系にあって、研究と教育に尽力されてこられた虫明康人先生は、昭和五十九年四月一日を以て東北大学を御退官になりました。

虫明先生は岡山県の御出身で、旧広島高等工業学校を経て、昭和十九年九月東北帝国大学工学部通信工学科を卒業、直ちに同大学大学院特別研究生となり、昭和二十四年東北大学工学部助教授、昭和三十五年工学部教授に任ぜられ、通信工学科高周波工学講座、電波物理工学講座を担当されました。

その間、先生はアンテナ工学、電磁波伝送工学の研究に数々の先駆的な輝かしい業績を挙げると共に、教育と研究指導によって多数の研究者と技術者の育成に尽くしてこられました。また、昭和五十五年より五十六年までは東北大学の評議員として東北大学の発展に多大な貢献をなされました。

アンテナ工学における研究では、周波数伝送工学の研究に多くの業績を挙げられました。電磁波伝送工学の研究においては、高度情報化社会に向つて注目されている光ファイバが外因によってその伝送特性が変化することを光ファイバの開発初期から指摘する共に、高度な光伝送システムの実現を目指した光集積回路の研究に多くの業績を挙げられました。

先生は、御退官後、昭和五十九年四月より東北工業大学学長として、引き続き教育と研究に携つておられ、各方面に御活躍されております。

## 佐藤利三郎先生 御退官

この間佐藤先生は、一貫して高周波伝送工学の研究教育に従事されておられます。先生は、多くの研究成果を挙げると共に、多数の研究者、技術者の育成に尽力されてこられました。先生の研究活動は高周波情報伝送工学全般にわたる。研究内容は多数の論文として発表され内外の注目を集めております。その内容一端をあげますと、まず第一に分布定数回路論の確立であり、先生は昭和二十二年に世界で最初の関数論的分布定数回路設計の基礎をなす誘導M形フィルタの設計理論を発表されました。この論文は分布定数回路理論の源泉となり、高周波電気回路に与えたインパクトは非常に大きなものでした。第二は通信用変成器

## 通研50周年企画

東北大学に電気通信研究所が創設されてから、昭和六十年は五十年に当たります。昭和六年の八木先生の報文に「我が国のために、未だ附属の独立研究所として認められるに至らないのは遺憾である」とあり、通研、電気、通信、電子、情報四学科の教育で組織された「東北大学電気通信研究所」の設置等の計画をしていく。記念出版、記念式典の開催等、記念式典資料収集等につきましても、同窓生の皆様の御協力を是非お願い申し上げます。連絡は通研庶務掛、記念行事実行委員会。(宮本記)



(裏面へ続く)



貢献も非常に大きく、情報工学科の創設、情報工学科の設置が先づあげられます。さらに、東北大学計算機センター長として大学全体の管理運営に尽力されました。
学外にあつては、電子通信学会副会長、郵政省電波技術審議会委員、電通公社技術委員、電通公社技術委員会委員、学術審議会専門委員などを歴任され、現在もなお、日本学術会議委員、IEEE、Board of Director (EMCS) などの要職にあり、国際的な立場より電気通信工学の研究教育を推進されておられます。

和二十四年に大学になつた。現在の地、東京の西部、新宿から特急で二十分の調布市に移つてから三十年以上経過した。
一般の人や大学関係者には本学を御存じない方が多いが、受験生からは最近難易度の急上昇した大学として注目されておられる。申しまつても、東北大学工学部を追い越した、さらに卒業生を受け入れる企業側からは最も熱いまなざしを向けられている大学である。何しろ弱電系だけで四学科、年二七〇名の学部卒業生を出す国立大学は他に無いのであるから無理もない。しかし情報系の学部卒業生は年一〇〇人。現在、本学は電気通信学部(実体は工学部)のもとに一学科を有し、前記の電気系四学科(電子情報学、通信工学、電子工学、情報工学)に、電気系工学部(電子工学)のほかに情報系二学科(計算機科学科、情報理工学科)機械系二学科(物理工学科、材料工学科)経営工学科より構成されている。それぞれに大学院(修士課程)が設けられている。

東北大との結びつきは強く、東北大の電気系元教官で本学に籍をおかれた方は、松平正寿先生(昭和三十八年)、岡田幸雄先生(昭和四十四年)、昭和四十五年卒の長谷川三三先生、武井健三先生、石井友次先生、なられた。角川正先生がおられる。東北大電気系同窓生の現役教官四名を御紹介しよう。まず電子情報学科(旧電波通信学科)には遠藤一郎(電通一九)、荒川輝明(電通一九)の両教授がおり、専攻は通信工学であり、通信工学科には同窓生が非常に多く、相田義一(電通二二)、石坂謙三(電通二八)、岡本孝太郎(通三七七)、後藤俊成(通三三七)の四教授、岸憲史(通四二)、田中清臣(電通四十二)、横沢康夫(電通五五)の三助教授、横田誠(電通博三十八)と、桑田正行(電四十七)、小野里好邦(通四十九)の三講師がおり、レーザ計測、音響工学、電子デバイス工学、情報工学、伝送工学、教育工学等の諸分野で活躍している。前に通研で助手をしておられた山中惣之助教授もこの学科で、通信方式論を専攻。通信工学科の教官には共通講義所属の教官を含めた。また電子工学科には鶴宏教授(電一八)、中田良助教授(子博四十四)がおり、それぞれ衛星通信、電子物性を専門としている。

本学は待望久しい博士課程の実現の目途がつけ、目下その前提条件である学科改編の大波に揺れている。現一学科を五学科程度に濃縮し、しかも学生定員を大幅増を可能にする案を検討している。博士課程の創設は電気通信大発展の大きな契機となるし、また国際的な大学(飛躍する)ための礎としても有意義である。今後も東北大同窓生各位の本学への御支援を切望致します。

最後にになりましたが、城戸健一先生、村上孝一先生(東北大学)、杉田慶一郎先生(岩手大学)など同窓生の方々、大学院担当非常勤講師として御援助いただいたこと御礼申し上げます。御紹介すると共に紙面を借りて感謝申し上げたい。同窓生の皆さんの益々の御健康と御活躍を心からお祈り申し上げます。

ソニー 鹿井信雄 (昭三新通信卒)
ソニー株式会社の本社は東京の品川駅、五反田から品川徒歩約三分の北品川(通称御殿山)にあります。本社、営業機構は別として、組織の主要は四研究所と八事業本部を軸に、その他サポート部門から成立し、更に全国各地の生産関連の子会社によって構成されています。

沖電気工業 小野 奨 (昭三新通信卒)
沖電気工業は、ベルが電話を発明した五年後の明治十四年に、日本の近代化には、通信機の国産化からという「進取の精神」をもって沖平太郎氏によって創立された明工業を母胎として、わが国の電気通信事業の発展と共に歩んで来て、本年で一〇五年を迎えます。

電気通信研究所の近況 通研広報委員会
今年もスパイクタイヤの粉塵が問題とされた季節となり、春にはソノエラボウに設立する予定もあり、同窓生一同喜んで居ります。最近のトピックとしては、元事務の早坂寿雄氏(電二)が電通公社及び沖電気で功績に對して五十九年十一月勲三等旭日中級章の叙勲を受けました。御同慶のたいりと存じます。

東北大学・電気・情報系の近況 電気・情報系運営委員会
会員の皆様には、青葉工業会ニュース等でして御承知のことと思いますが、昭和五十九年四月一日から情報工学科が発足しました。(詳しくはこの同窓会便り「情報工学科について」を参照) これで「電気・情報系」が「電気・情報系」名実共に「電気・情報系」となり、学生も電気・情報系として一括して募集し、三年生になってから、各学科に配属されることになりました。新たな学生定員は、電気工学科(七講座・五十名)、通信工学科(六講座・四十名)、電子工学科(六講座・五十名)、情報工学科(六講座・五十名)であります。

東北学院大学 菊地新喜 (昭三新通信卒)
東北学院大学工学部は仙台から一五〇程の多賀城の中央に文科系四学科のある本部から独立して校舎を構えています。近くには奈良時代にこの附近の政治文化の中心であったことを示す多賀城遺跡や歌枕で有名な末松山などがあつて、閑静で落ち着いた環境です。

遠藤 一郎 (昭三新通信卒)
クイズを一つ、「国立の大学のなかで、地名のついていない大学は？」答「電気通信大学」。本学が地名を冠していない理由として私は、本学が地域の大学ではなく、全国的な大学であり、将来は世界的な大学を志しているため、と説明している。

電気通信大学
クイズを一つ、「国立の大学のなかで、地名のついていない大学は？」答「電気通信大学」。本学が地名を冠していない理由として私は、本学が地域の大学ではなく、全国的な大学であり、将来は世界的な大学を志しているため、と説明している。

東北学院大学
東北学院大学工学部は仙台から一五〇程の多賀城の中央に文科系四学科のある本部から独立して校舎を構えています。近くには奈良時代にこの附近の政治文化の中心であったことを示す多賀城遺跡や歌枕で有名な末松山などがあつて、閑静で落ち着いた環境です。

鹿井信雄
ソニー株式会社の本社は東京の品川駅、五反田から品川徒歩約三分の北品川(通称御殿山)にあります。本社、営業機構は別として、組織の主要は四研究所と八事業本部を軸に、その他サポート部門から成立し、更に全国各地の生産関連の子会社によって構成されています。

沖電気工業
沖電気工業は、ベルが電話を発明した五年後の明治十四年に、日本の近代化には、通信機の国産化からという「進取の精神」をもって沖平太郎氏によって創立された明工業を母胎として、わが国の電気通信事業の発展と共に歩んで来て、本年で一〇五年を迎えます。

電気通信研究所の近況
今年もスパイクタイヤの粉塵が問題とされた季節となり、春にはソノエラボウに設立する予定もあり、同窓生一同喜んで居ります。最近のトピックとしては、元事務の早坂寿雄氏(電二)が電通公社及び沖電気で功績に對して五十九年十一月勲三等旭日中級章の叙勲を受けました。御同慶のたいりと存じます。

東北大学・電気・情報系の近況
会員の皆様には、青葉工業会ニュース等でして御承知のことと思いますが、昭和五十九年四月一日から情報工学科が発足しました。(詳しくはこの同窓会便り「情報工学科について」を参照) これで「電気・情報系」が「電気・情報系」名実共に「電気・情報系」となり、学生も電気・情報系として一括して募集し、三年生になってから、各学科に配属されることになりました。

遠藤 一郎
クイズを一つ、「国立の大学のなかで、地名のついていない大学は？」答「電気通信大学」。本学が地名を冠していない理由として私は、本学が地域の大学ではなく、全国的な大学であり、将来は世界的な大学を志しているため、と説明している。

東北学院大学
東北学院大学工学部は仙台から一五〇程の多賀城の中央に文科系四学科のある本部から独立して校舎を構えています。近くには奈良時代にこの附近の政治文化の中心であったことを示す多賀城遺跡や歌枕で有名な末松山などがあつて、閑静で落ち着いた環境です。

鹿井信雄
ソニー株式会社の本社は東京の品川駅、五反田から品川徒歩約三分の北品川(通称御殿山)にあります。本社、営業機構は別として、組織の主要は四研究所と八事業本部を軸に、その他サポート部門から成立し、更に全国各地の生産関連の子会社によって構成されています。

沖電気工業
沖電気工業は、ベルが電話を発明した五年後の明治十四年に、日本の近代化には、通信機の国産化からという「進取の精神」をもって沖平太郎氏によって創立された明工業を母胎として、わが国の電気通信事業の発展と共に歩んで来て、本年で一〇五年を迎えます。

電気通信研究所の近況
今年もスパイクタイヤの粉塵が問題とされた季節となり、春にはソノエラボウに設立する予定もあり、同窓生一同喜んで居ります。最近のトピックとしては、元事務の早坂寿雄氏(電二)が電通公社及び沖電気で功績に對して五十九年十一月勲三等旭日中級章の叙勲を受けました。御同慶のたいりと存じます。

